

第8章 へき地教育

1 へき地の特性を生かした学級経営と学習指導

(1) へき地校の一般的特性

単学級編制で、児童生徒数が少ないため、欠学年が生じたり複式学級を編制したりする場合があるが、一方で少人数を生かした学習活動が行われ、異年齢集団での活動や全校児童生徒での活動など学校や地域の特色を生かした活動が活発である。さらに、ICTを活用して、へき地校間同士をつないでの授業等も積極的に取り入れられている。

また、きめ細かな指導や個に応じた指導が行われ、教員と児童生徒、児童生徒間の関係の緊密度が高い反面、教員の児童生徒に対する評価の視点が固定化し、指導過多による児童生徒の教員に対する依存の傾向が強くなりがちである。

(2) へき地校における学級経営上の留意点

少人数であるため人間関係や活動が固定化されやすく、このことが児童生徒の自主性や自発性の伸長にも少なからず影響している。そこで、学級経営上特に留意しなければならない点を挙げる。

- 一人一人の特長や個性を認め合う心情を育成し、望ましい人間関係を築くこと。
- 自己表現が十分にできる児童生徒を育てること。
- 支援の手を出すことを急がず、自主的、意欲的に取り組む児童生徒を育てること。

(3) へき地校における学習指導上の留意点

個に応じた指導を十分に行うことが可能であるが、児童生徒の意見や思考にやや多様性や柔軟性を欠く傾向がある。そこで、これらの特性に十分配慮し、学習指導を進めていくための一般的な留意点を挙げる。

- 学習への意欲を喚起し、関心を高める工夫をすること。
- 自らの考えを最後まで発言させるなど、児童生徒が主体的に学習しようとする態度を育てること。
- 教員が多様な考えをもって授業に臨み、児童生徒の意見に共感したり対立した意見を述べたりしながら児童生徒の多様な思考を引き出す工夫をすること。

(4) へき地校における特色ある学習指導

集団でなければ体得し得ない経験は、へき地校ではどうしても不足しがちになる。そのため、合同学習、集合学習など、特色ある学習指導が展開されている。

合同学習	学級や学年の枠をはずした学習集団を編制して学習する。
集合学習	他校の同学年の児童生徒、または全校児童生徒が集まって学習する。
交流学習	学校規模や生活環境が異なる学校間で交流しながら学習する。
地域交流学習	地域の人々との交流を通して、歴史、文化、産業などの学習をする。
ICTを活用した学習	ICT機器を用いて、話し合いや発表などの学習をする。

参考資料

- ① 「複式学級における学習指導 改訂版Ⅱ」(奈良県教育委員会)
<https://www.pref.nara.jp/41837.htm>
- ② 「小規模校における協働学習を活性化するためのICT活用事業」
<https://www.pref.nara.jp/secure/39251/28ict.pdf>
- ③ 全国へき地教育研究連盟 <http://www.zenhekiiren.net>
- ④ 奈良県発☆へき地教育(奈良教育大学) <https://naraheki.wordpress.com>

①



②



③



④

